

2022 年度保健看護学科 学びの姿勢(教育課程編成・実施の方針) 報告書

I. 学びの姿勢(教育課程編成・実施の方針)振り返り

1. 分析対象数は、1年生が69名(79.3%)、2年生が75名(90.4%)、3年生が21名(25.9%)、4年生が24名(27.6%)であった。
2. 全学年を通して高得点の項目は、協力・協働(グループワークや実習などで他メンバーや教員、指導者と良好な関係を築くことができる)(4.0)、臨地実習(臨地実習は何故行うか知っている)(3.9)、授業方法の種類(科目の授業方法には講義、演習、実習があることを知っている)(3.8)であった(図2)。
3. 低得点の項目は、社会貢献(ボランティアなどを行っている)(2.4)、資格取得(2.4)であった。新型コロナウイルス感染対策上、社会活動自体が制限される状況にあり、1年生では特に新しい活動始める機会が失われ、大きく影響を受けたものであると思われる。(図2)。
4. 全体的に学年が上がる毎に学びの姿勢が向上する傾向にあった。授業方法の種類、協力・協働においては、高い傾向がみられ、対面授業の制限も残る中、学生自身が授業に関心を寄せ、意識を高めていたと推察される。また、実習等限られた対面の機会に、協力・協働の重要性について修得したと考えられる。

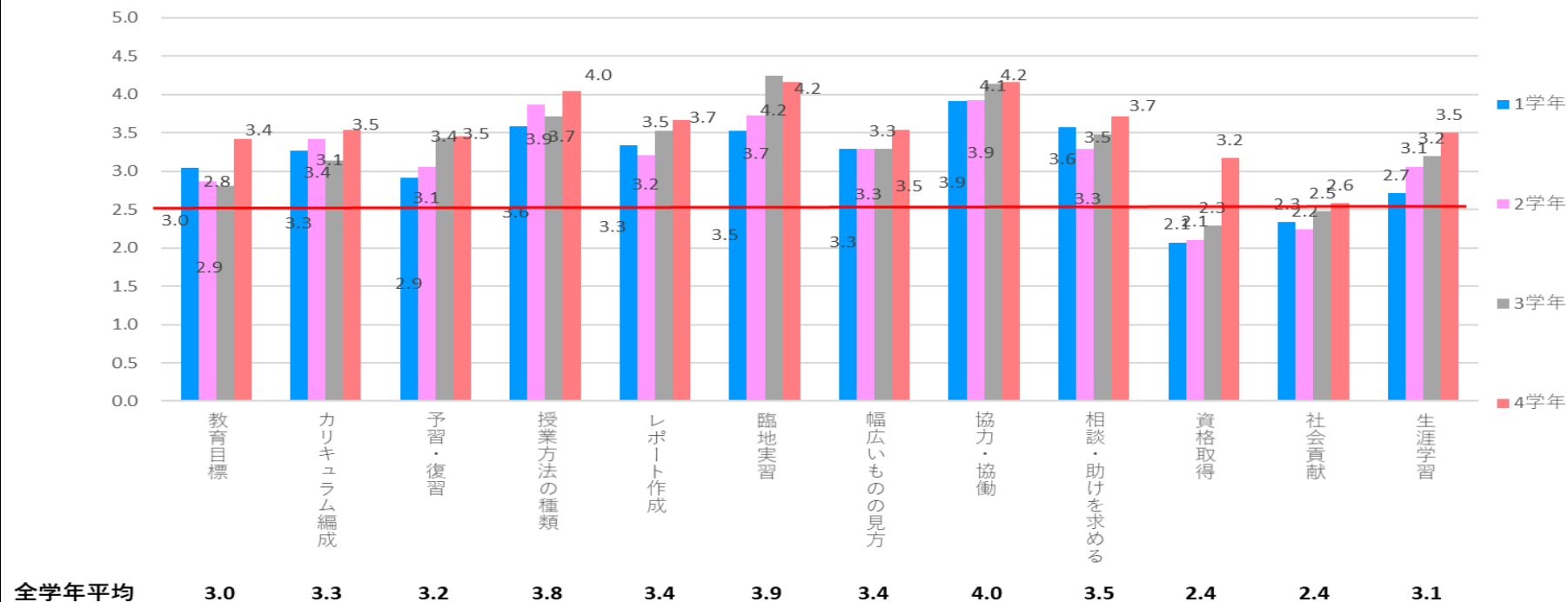


図2)学びの姿勢(教育課程編成・実施の方針)

